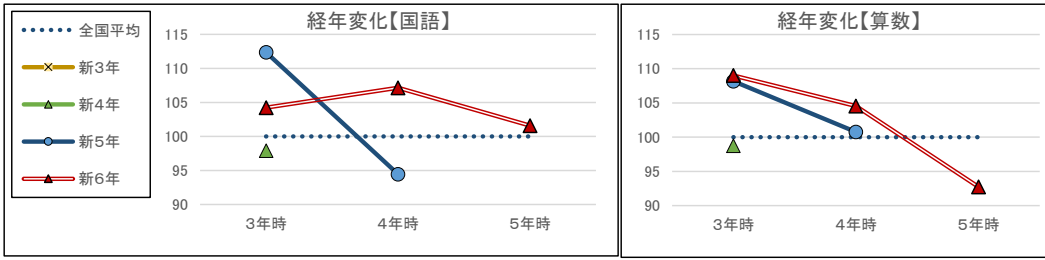


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 各学年の標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、3～6年生を対象に標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に●年生においても実施しています。



② 学校の状況

釧路市標準学力検査の結果から(学力検査結果)

- 国語は6年生、算数は5年生が全国平均を上回っています。
- 上回っている学年があるものの、5年生・6年生で下降傾向にあります。

釧路市標準学力検査の結果から(生活行動・学習活動調査結果)

- 多くの質問項目で、肯定的な回答が全国平均を上回っており、自己肯定感や規律意識、学習・生活意欲が高く、自主性も育っています。
 - 国語・算数ともに「話をしっかり聞く」「きちんとノートをとる」「宿題をきちんとする」などの項目で高い割合となっており、学校での学習態度が身に付いています。
 - 「返された答案の見直しをする」「授業のために予習をする」「習ったことを復習する」などの項目が、全国平均と比較すると低い比較的低い割合となっています。
 - 「新聞を（自分の考えと比べながら）読む」「分からない言葉は辞書を引く」「本を読んでいる」などの項目が、特に低い割合となっています。
 - 生活面では、「睡眠不足にならないようにしている」「夜は、時刻を決めて寝ている」の項目が低い割合となっており、22時00分以降に就寝する児童が約3/4います。
- #### 学校評価及び学習・生活アンケートの結果から
- 「始まりと終わりの挨拶をする」「呼ばれたら返事をする」「自分の考えをもつ」など、学習の約束を守って学習に取り組んでおり、学校の勉強がわかると回答した児童が多いです。
 - 「聴く」姿勢について、それぞれの捉えが曖昧であるため、具体的に定義づける必要があります。
 - 1日2時間以上メディアに触れている児童が半数程度存在しています。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○学習者中心の授業づくり ●「共栄小学習の手引き」に沿ってそろう授業づくりの徹底 ●課題解決に向けた児童の自己決定の場の設定 ●児童の必要感や目的意識に基づく交流場面（児童同士の対話）の充実 ○学習内容の確かな定着 ●児童一人一人の学習でのつまづきや定着度を随時確認しながら授業を展開 ●テストやプリントの丁寧な見直しの取組 ●「なぜ?」「もっと知りたい」等、家庭学習（復習・予習）につながる終末の設定 ○ICTの効果的な活用 ●デジタル教科書、デジタルコンテンツ（教科書掲載QRコード）の積極的な活用 ●ロイロノート等の活用を通した個人思考の可視化による交流場面の充実 ○教職員の資質能力の向上 ●全教職員が各種研修会（オンライン学習会）に年2回以上参加し、研修成果を還元 	<ul style="list-style-type: none"> ○受容・共感的な風土 ●全ての教職員が生徒指導要領の内容理解に基づく発達支持的生徒指導の視点に立った学級づくり ●一人一人が自分の考えを表出でき、異なる意見にも耳を傾け認め合えるよう一人一人の個性（よさ）や頑張りを認め、支え、高め合える学級づくり ○学習に向かう姿勢 ●学習規律（共栄小学習の約束10）、学校生活の約束事の徹底 ●学習・生活習慣アンケートの実施（学期末）による指導の評価・改善 ●課題解決に向けて粘り強く取組む態度の育成 ○学力を支える資質能力の向上 ●メリハリのある環境づくり ●「聴く」姿勢についての共通理解 ●話し方・聴き方等の社会性の涵養 ●多くの人との関わりを通したコミュニケーション能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○補充・定着のための取組 ●宿題・朝学習・授業等で活用できる学習プリントの常備 ●ノート指導や宿題、朝学習を活用し、漢字を正しく書く意識づけ ●放課後学習の実施による基礎学力のスキルアップ ●漢字や算数検定による学習意欲の向上 ○学習習慣づくり ●「元氣カード（生活リズムチェック）」「家庭学習パワーアップシート（高学年）」「各種ノート展」「ノート紹介お便り発行」の取組の継続 ●メディア利用に関する家庭への定期的な啓発による家庭での学習・読書時間の確保 ○環境づくり ●外部講師を招いた出前授業や、地域資源を活用した体験的な学習の充実 ●読み聞かせ、読書週間に合わせたイベントの実施、読書の記録化による読書習慣の定着

② 各学年の指導の重点

1年生の重点	2年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○話す人の顔を見て、興味をもって「聴く」態度を養う。 ○児童一人一人の経験や体験、思いや考え等を交え「話す」機会を充実させる。 □イラストを活用したり具体物を操作したりする活動を大切に、数や形・量と測定時の感覚を豊かにしていく。 □日常の経験や体験とつなぎ合わせながら加法・減法の計算技能や時刻の習熟に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す人の顔を見て、大事なことを落とさないように集中して「聴く」態度を養う。 ○経験や体験、思いや考え等を交え、語と語や文と文との続き方に注意し「書く」機会を充実させると共に、読み返す習慣をつける。 □検定等で学習意欲を引き出し、加減・乗法計算の定着を図る。 □文章問題をテープ図に表し筋道を立てて考えさせるなど、思考力の向上を図る。
3年生の重点	4年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○話す人へ体に向け、話の中心に気を付けて「聴く」姿勢を養う。 ○朝学習・宿題・学習用アプリの取組を充実させ、漢字やローマ字の読み書きの定着を図ると共に、自分の考えが明確になるように文章を構成して「書く」力を養う。 □プリントや学習アプリの活用を充実させ、加減・乗法計算、時刻の定着を図る。 □ロイロノート等の活用を通した個人思考の可視化による交流場面の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す人へ体に向け、考えの共通点や相違点を捉え「聴く」姿勢を養うと共に、適切な言葉遣いで質問や感想を「話す」力を養う。 ○読書活動を充実させ、話の情景や登場人物の気持ち等について想像して「読む」力を養う。 □プリントや学習アプリの活用を充実させ、問題の意味を捉えて正確に四則計算できる力を養う。 □考えをタブレットで可視化し、交流場面を充実させる。 ◎粘り強く学習に取り組むことができる環境づくりを整える。
5年生の重点	6年生の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○うなずいたり相槌をうったりして反応しながら、話の意図をつかんで「聴く」姿勢を養う。 ○読書活動を充実させ、文章を的確に押さえて自分の考えを明確にした「読む」力と目的に応じて事柄を整理して「書く」力を養う。 □プリントや学習アプリの活用を充実させ、問題の意味を捉えて正確に四則計算できる力と分数や小数を理解する力養う。 ○児童の必要感や目的意識に基づく交流場面の充実を図る。 ◎外部講師を招いた出前授業や地域資源を活用した体験的な学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うなずいたり相槌をうったりして反応しながら、話の意図を捉えて聞き、自分の意見と比べるなどして適切に「聴く」姿勢を養う。 ○読書活動を充実させ、登場人物の心情や場面について捉えて自分の考えをまとめながら「読む」力と文章全体の構成を考えて自分の考えを「書く」力を養う。 □時間制限を設けるなどして、問題を速く正確に解く力を養う。 □図や数直線を活用して、発展問題に主体的に取り組みできるようにする。 ◎外部講師を招いた出前授業やオンライン学習、地域資源を活用した体験的な学習の充実を図る。